

桜蔭俳話会 五月句会 (第三六五回)

山下公園で吟行。

「推薦句」海風のふいの抱擁麦わら帽 才美
海風の抱擁とは、柔らかな感性の句である。

「自句自解」
競漕や「沈」と絶句のアナウンス 守
ボートレースやヨットレースでは、参加艇が沈没する事態を「沈」と一語で表現する。このアナウンスを受けて、会場には微妙な緊張が走る。

「原句」インド水塔見上げて喉の暑さかな 明美
「添削案」水の塔見上げし喉の暑さかな
インド水塔の由来や説明を盛り込むことの困難性への挑戦はまだ乗り越えていないが、「喉が暑い」との把握は面白い。

「原句」薔薇の香やキッズダンスの舞台まで 友子
「添削案」跳ね回るキッズダンスや薔薇の香
「理由」舞台まで、と言いたいのは分かるが、少し表現が冗漫か、

「原句」風あびて冷し珈琲一気飲み 邦子
「添削案」海風や冷し珈琲一気飲み
「理由」冷し珈琲なる商品の存在は未だ知らないが、珈琲の一気飲みのリズム感が面白い。一気飲みには喉の塩辛くなる潮風が相応しい。

「原句」薔薇の美と真摯な対峙カメラマン ヤエ子
「添削案」薔薇開けて言葉優しきカメラマン
「理由」美、真摯、対峙は分かるが、言葉の意味が少し硬いか。

「原句」のぞかるるまだ濡れてゐる薔薇の画布 才美
「添削案」海風やまだ濡れてゐる画布に薔薇
「理由」覗かれています画布、濡れている画布という修飾語句の二重性は避けたい。その画布に薔薇が描かれている。

「原句」海風と太鼓の音や風光る

幸

「添削案」海風と太鼓の音や夏日燦

「理由」夏の日の港に居ることを強調した方が良い。

「原句」噴水の眩し伏し目の女神像 友子
「添削案」眩しきは噴水伏し目の女神像
「理由」伏し目の着眼は良いが、「眩し伏し目」とすると、原因と結果の関係性がもろに出て来るので避ける。

「原句」吟行の薄暑愉しき横浜路 邦子
「添削案」そぞろゆく薄暑の町や港町
「理由」俳句では作者の感情は直接的には述べない方が良い。

「原句」夏帽を嫌ふ駄々つ子沖の雲 友子
「添削案」夏帽子嫌ふ子のあり雲白し
駄々つ子とまで言ってしまうと、因果関係が強くなる過ぎる。

「原句」幼らのダンス軽やか青葉風 ヤエ子
「添削案」ちびっこのダンスの振りや青葉風
「理由」軽やかでは、普通の句の域を出ていない。

「原句」夏木立ボートレースの声揃ふ ヤエ子
「添削案」転回の声の高まりボート来る
「理由」ボートレースでは漕ぎ手の声が揃うのは当たり前のこと。ボートレースも夏木立も夏の季語。

「原句」異国語が飛び交ふ園に薔薇が咲く 眞壽
「添削案」異国語の混じりし園や薔薇開ける
「理由」主格を表す助詞の使う順序は原則として、呪文のように、「が」「は」「は」「は」「の」にするとうまい。

「原句」薔薇の門くぐり返してから帰る 才美
「添削案」薔薇の門くぐりて戻る資料館
「理由」くぐり返してから帰るは、もつと短縮出来る。

「原句」幹長き鉄輪の支え薔薇香る

ヤエ子

〔添削案〕 薔薇香る鉄輪の影の支へ棒
〔理由〕 支え棒の途中の輪に着眼した点が良い。少し言葉を整理して。

〔原句〕 青葉風引き締めらるる舳ひ網 才美

〔添削案〕 青葉潮ぐいと締めたり舳ひ網

〔理由〕 舳ひ網は、元々引き締められるもの。網と網の表記には、出句者も清記者も注意して。

〔原句〕 薔薇百花眼下に警備艇速し 才美

〔添削案〕 薔薇百花眼下に消ゆる警備艇

〔理由〕 警備艇は元来、速いもの。

〔原句〕 潮風に揺られてばらの一花散る 明美

〔添削案〕 潮風に香り委ねし薔薇一花

〔理由〕 散るのが冗漫である。

〔原句〕 しぶき浴ぶ水の守護神雲の峰 明美

〔添削案〕 たかだかと水の守護神雲の峰

〔理由〕 水としぶきは近い関係にある。

〔原句〕 文化財黒文字大き氷川丸 幸

〔添削案〕 初夏の歴史語りし氷川丸

〔理由〕 氷川丸は文化財であるという着眼は良いけれども、季語が入っていない。このような無季の俳句は難しい。文化財の言葉が浮いている。

〔原句〕 不揃いのダンス踊るや夏来る 眞壽

〔添削案〕 不揃ひのキッズダンスや初舞台

〔理由〕 ダンスも踊も夏来たるも夏の季語。焦点は一つに絞る。

〔原句〕 ばら開ける沈床花壇の小径かな 明美

〔添削案〕 ばら開ける沈床花壇の真昼かな

〔理由〕 小径では、沈床花壇に頼り過ぎていて、開けるが効いていない。

〔原句〕 新緑の公園囲むビルの群れ 眞壽

〔添削案〕 ビル群の中の公園新樹光

〔理由〕 着眼は良いが、原句では平叙文に終わっている。

〔原句〕 犬と子の芝生コロコロ薄暑光 友子

〔添削案〕 ころころと仔犬の遊び薄暑光

〔理由〕 薄暑光の発見は良い。犬か子供か焦点を絞る。

〔原句〕 咲き満てるバラのパズルや誰も解けぬ 才美

〔添削案〕 咲き満ちし薔薇のパズルへ埋もれけり

〔理由〕 パズルの着眼は良いが、解けぬまでは述べ過ぎ。

〔原句〕 山ゆりに見送られてた吟行す 直子

〔添削案〕 吟ずれば山百合一つ頷きぬ

〔理由〕 流石は県庁所在地。山百合が多い吟行ではあった。しかし、ダイレクトに吟行とするのは一考。

〔原句〕 風ゆるみ光ゆるみて夏浅し 邦子

〔添削案〕 海光や風のゆるみに薔薇百花

〔理由〕 初夏の感じが良く出ているので、ゆるみという言葉の発見は良い。風と光の両方に使うのは難しい。

〔原句〕 黒光りするブルドックにも夏来る 眞壽

〔添削案〕 夏来る黒き光りのブルドッグ

〔理由〕 ブルドックはブルドッグのことか。散歩犬の黒光りと夏来るが、ほど良く合っている。「にも」は使わない。

（文責：代表 増田守 欠席投句 古野 明美、恩田才美）